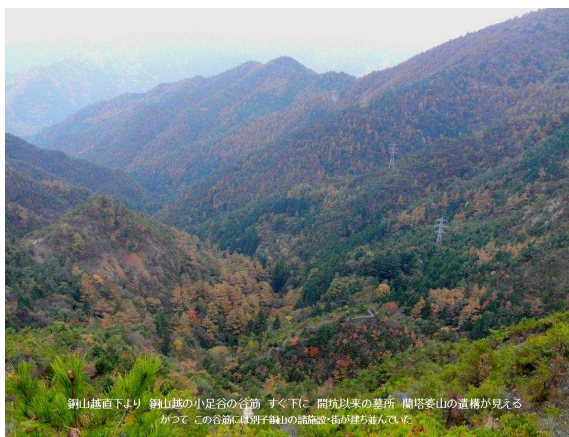
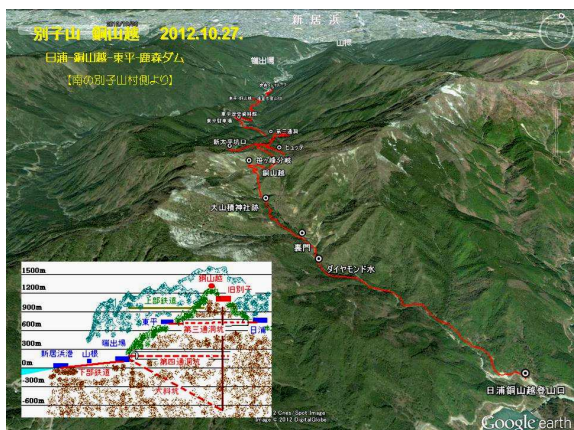




別子山の南側 足谷川沿いの谷に旧別子銅山跡が埋まっている また、別子山の稜線を越えて北の新居浜へ銅を運ぶ銅の道があった 2012.10.27.

この別子銅山が近代化される前 別子山の南北両側の銅山をつなぎ、最短距離で新居浜の港までを結び、銅山の隆盛を支えた銅の道「銅山越・泉屋道」があった。

銅山を経営する泉屋（住友）によって建設され、銅山の隆盛を支えた「銅の道-銅山越・泉屋道-」別子銅山の近代化以前 別子山の稜線を越えて南北両側の銅山をつなぎ、さらに最短距離で新居浜の港まで人馬一体となって銅鉱石を運んだ「銅の道」である

煙害で丸裸になった四国別子銅山の別子山は 100 万本を越える植林推進と約 100 年近くを経て 今 緑の山が復活。旧別子銅山跡の産業遺産が自然の森の中に埋まっている。

別子山の稜線を越えて 南から北へ伸びる銅山越の銅の道は今も古き旧別子銅山跡を巡り、別子山を訪ねる静かな登山道として整備され、緑の森の中に健在。私にとっては念願の別子山銅山越 Walk。 前日 松山へ行った帰りにあわせ、全山紅葉に彩られた 10 月 27 日この銅の道を歩きました。

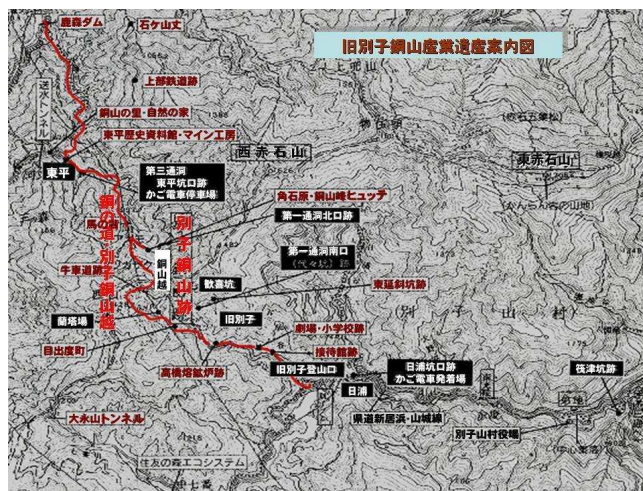
紅葉の山の中に埋まる旧別子銅山。 かつて、亜硫酸ガスで丸裸になっていた山々 そして旧別子 別子山村の役場もあった大集落や・大銅山の鉱山諸施設などの産業遺産がこの山の中に点在していたとは信じがたい。 今では別子の自然の中に溶け込んで「東洋のマチュピチュ」と呼ばれる素晴らしい景観を作っている。

以前 2005 年秋別子銅山記念館・別子マイントピアを訪れた時に、タクシーで銅山越登山口まで行ったのですが、交通事情が悪く、残念ながら旧別子銅山跡を訪ねる銅山越ができず、タクシーでそのまま戻りました。 私にとっては念願の別子山銅山越 Walk。別子山南側日浦登山口から別子山稜線「銅山越」に登り、新居浜側「東洋のマチュピチュ」と呼ばれる別子銅山東平を経て、鹿森ダムサイト登山口まで 紅葉した谷に沿って続く銅の道 旧別子銅山の遺構 集落跡や銅山諸施設の産業遺産をゆっくりながめながらの walk。 念願の別子銅の道・銅山越を踏破しました。

別子山銅の道 Walk の道々でデジカメに撮り、スライド動画の映像資料にしましたので、少し大部ですがご覧ください。なお 最近住友林業（株）の TV コマーシャルにこの旧別子銅山跡が自然再生の森として紹介されています。



東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山「東平」地区





## 別子銅山 銅の輸送路 銅の道

泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

<http://h2o.sakura.ne.jp/bessi/Qbessi/Q0data/miti/miti.html> & <http://www2.dokidoki.ne.jp/tomura/cutrans.htm> より



●上部鉄道 角石原―石ヶ山丈 明治44年(1911) 10月7日 廃止  
●下部鉄道 惣開―一端出場 昭和52年(1977) 2月1日 廃止

### (泉屋道)一次泉屋道

別子銅山が開坑されたのは元禄四年のことで、それより50年も前の寛永年間より銅山峯の北側の西条藩に属する立川銅山が盛んに採鉱されていた。

別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間柄は必ずしも円満ではなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立川銅山城を通らず、宇摩郡の地域内から赤石連山の東側の小箱峠越で運ばれていた。

### (新居浜側へ直接出る道 二次泉屋道 & 三次泉屋道)

住友の長年にわたる幕府への嘆願と立川鉱山の経営不振により、立川鉱山が住友の請負鉱山となり、やっと元禄年間に西赤石山越そして銅山越の道が開かれた。

### 二次泉屋道 元禄15年(1702)～寛延2年(1749)

足谷・東延―西赤石南側―雲ヶ原―西赤石と上兜山の間―石ヶ山丈―立川中宿＝新居浜口屋

### 三次仲持道 寛延2(1749)年～明治13年(1880)

足谷―銅山越―角石原―馬の背―御番所―東平―一端出場―立川中宿＝新居浜口屋

### (牛車道)

牛車道 明治13年(1880)～明治26年(1893)

足谷山―銅山越―角石原―石ヶ山丈―立川中宿＝新居浜口屋

### (第一通洞→上部鉄道→索道→下部鉄道)

◆ 明治26年(1893)～明治38年(1905)

足谷山―第一通洞―角石原―石ヶ山丈―打除＝惣開精練所

馬車 牛引籠車 上部鉄道 索道 下部鉄道

◆ 明治38年(1905)～明治44年(1911)

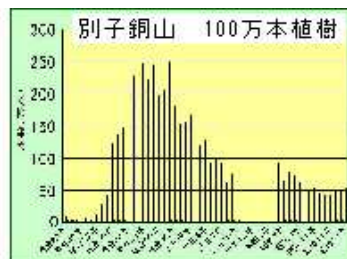
足谷山―第一通洞―角石原―石ヶ山丈―打除＝惣開＝四坂島

馬車 牛引籠車 上部鉄道 索道 下部鉄道 海上輸送

明治44年 第三通洞が日浦―東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ)



別子山緑の自然の中に静かにうずもれている旧別子銅山 & 銅山と積出港 新居浜結ぶ銅の道・別子山銅山越



「別子全を 旧のあおとした姿にして これを大自然にかえさせねばならない」 明治30年ごろ 伊庭貞剛

明治半ばから始まった 銅山の煙害で丸裸の別子の山を緑の山へ 100万本の植林運動 約100年を経て 別子山に緑が復活





東平第三通洞北口



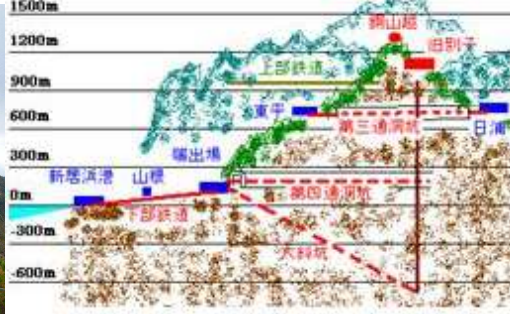
東平貯鉱庫跡



東平索道の停車場



東平歴史資料館・マイン工房



別子山 銅山越



足谷集落跡



足谷 小学校跡

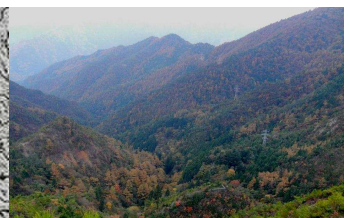
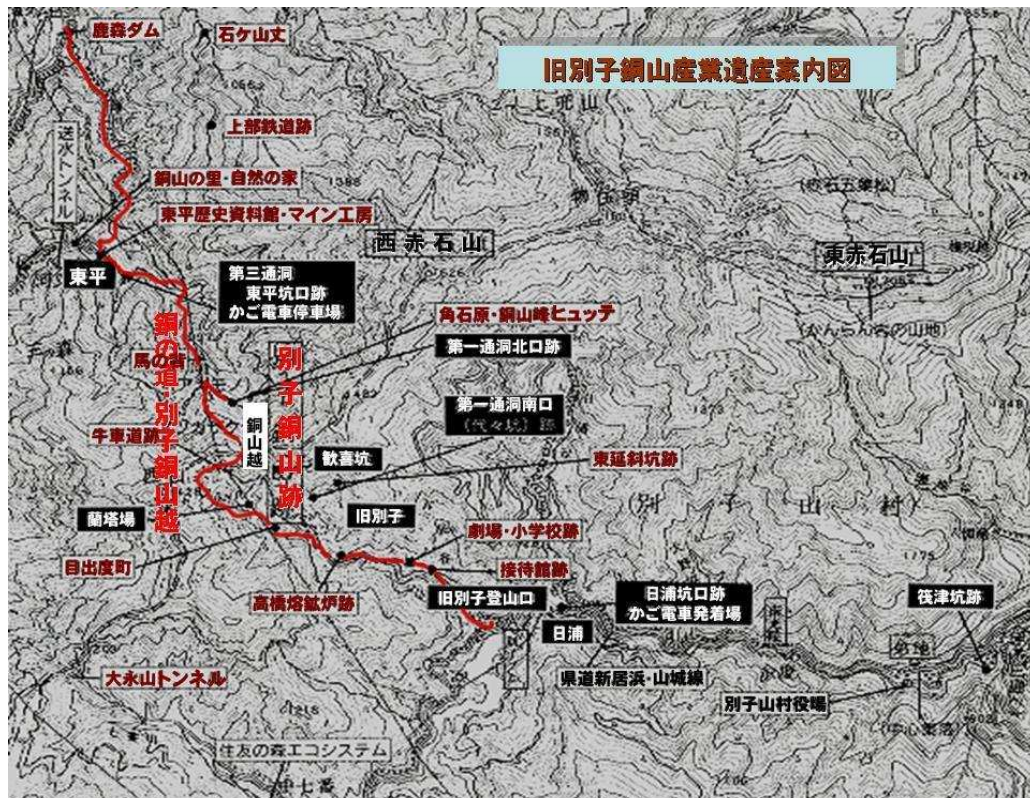


高橋製錬所跡



銅山越／目出度町 牛車道

東西に伸びる別子山の南北両側の山腹・谷に広がる旧別子銅山の産業遺産



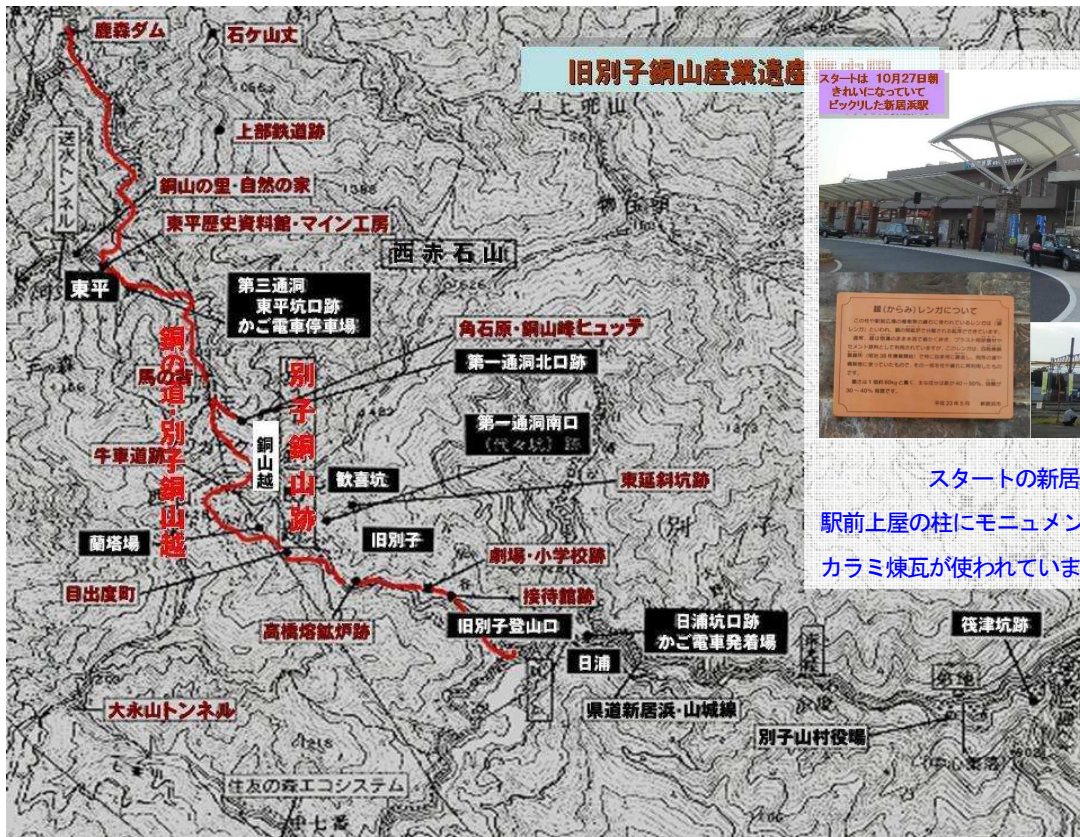
【参考】Country Walk・風来坊 2005年11月  
「四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk」  
- 赤石山系 別子銅山の山郷 別子山村 -  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/4walk10.pdf>



# <<写真アルバム>>「別子銅の道・銅山越」Walk 2012.10.27.

別子銅山 銅の道 銅山越 walk の写真を抜粋して掲載しました

1. 新居浜駅から地域バスで国領川沿いを南側の旧別子銅山跡登山口日浦に向かう
2. 別子山村日浦登山口から足谷川沿いの溪谷沿い旧別子銅山跡をたどって 別子山の頂 銅山越へ
3. 別子山頂上稜線 銅山越
4. 銅山越から馬の背を下って東洋のマチュピチュと呼ばれる「東平」旧別子銅山跡へ
5. 東洋のマチュピチュと呼ばれる第三通洞を通じた旧別子銅山輸送の中心「東平」地区
6. 東平からかつての生活道 旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る



スタートは、10月27日朝  
きれいな天気になっていて  
ピクニックした新居浜駅



スタートの新居浜駅

駅前上屋の柱にモニュメントとして旧別子銅山の  
カラミ煉瓦が使われていました



別子銅山 銅の採掘は東西に横たわる別子山の山頂部からほぼ垂直や斜めに山体の中に伸びてい銅鉱床に向かって南北両側の山腹から掘り進められた。  
したがって 銅山の坑口や集落・諸施設は この南側旧別子と新居浜側立川(角石原・東平など)の谷沿いのくぼ地にあり、最盛期には「通洞」と呼ばれる大きな水平坑道が三体をぶち抜き、山を越えることなく両側の坑道や諸施設・集落が繋がれていた。  
それまでは人馬一体となって別子山を越えてゆく厳しい「銅の道・別子銅山越」の仲持道が南から北の新居浜へと続いていた。





## 1. 新居浜駅から地域バスで国領川沿いを南側の旧別子銅山跡登山口日浦に向かう



国領川沿いの別子ライン渓谷をまっすぐ北に溯るとそこはもう旧別子銅山の領域 鹿森ダムからジグザクによって大永山トンネルを抜けて別子山村側へ



大永山トンネルを抜けると紅葉した銅山川渓谷 川向こうには四国脊梁石鎚山脈の岩峰が建ち並ぶ 別子ダム湖が見るとまもなく日浦の登山口

## 2. 別子山村日浦登山口から足谷川沿いの渓谷沿い旧別子銅山跡をたどって 別子山の頂 銅山越へ



**銅の道(1)** 別子山村日浦登山口入口周辺



**銅の道(2)** 小足谷集落周辺 円通寺跡・小足谷集落跡・接待館跡



**銅の道(3)** 小足谷集落周辺 小学校・劇場・小学校





**銅の道(4)** 紅葉が美しい足谷川の溪谷 溪谷に沿って北の別子山の稜線銅山越へと銅の道が続く



**銅の道(5)** 旧別子の中心地 製錬所(熔鉱炉)があった高橋(1) 谷筋の対岸に見える製錬所跡の石垣



**銅の道(6)** 旧別子の中心地 製錬所(熔鉱炉)があった高橋(2) ダイヤモンド水の広場には木炭倉庫や製錬課 対岸に焼鉱炉



**銅の道(7)** 高橋周辺の谷筋 紅葉した溪谷が美しい。すぐ上の橋で 谷を渡って寛政谷から銅山越へ向かう道と そのまま山腹を目出度町から銅山越へ行く道の分岐点 銅山越はもうまじか かつては鉱石を焼く煙・亜硫酸ガスで山は丸裸 今産業遺産となった諸施設は自然の中にうずまっている



**銅の道(8)** 目出度町 対岸の木部の集落跡を眺めながら山腹を幾つか枝谷を渡ると旧別子の中心 目出度町 明治になるとこの目出度町から銅山越へ牛車道が開通する 大山神社や重任局がおかれ、別子山村の役場 住友の接待場 街には学校・郵便局・料亭が軒を並べ、病院もあったという。





銅の道(9) 目度町から銅山越下の牛車道へ

林の中の目度町跡を抜け、送電鉄塔沿い尾根筋に登ってゆくと視界が開けてくる  
登ってきた谷筋の紅葉が美しく、周囲の山々が遠くまで見晴らされる。  
そして 不意に広い牛車道に合流した



銅の道(10) 銅山越下の牛車道

登ってきた美しい谷筋の景色を眺めながら牛車道を登る  
旧別子銅山の産業遺産ががこの紅葉した谷筋の森の中にうずまっている

### 3. 別子山頂上稜線 銅山越

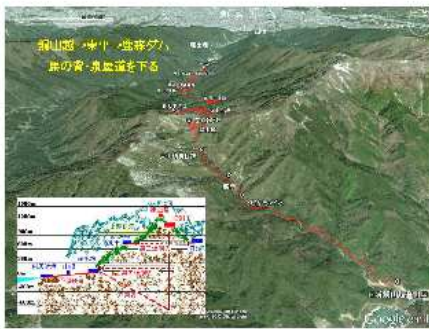


銅の道(11) 別子山 銅山越





#### 4. 銅山越から馬の背を下って東洋のマチュピチュと呼ばれる「東平」旧別子銅山跡へ



銅の道(12) 角石原

銅山越から新居浜側へ下った別子銅山の東平側中心地のひとつ。今は広場に銅山ヒュッテが建つ。明治になると角石原を通過して、石西赤石山の山麓から、柳谷川の谷の上方を石丈ヶ山へ下る牛車道が開通し、さらに第一通洞が開通すると角石原と石丈ヶ山を結ぶ上部鉄道が開通する。



銅の道(11) 新太平坑坑口に立寄ったあと馬の背・泉屋道を旧別子銅山「東平」へ下る

#### 5. 東洋のマチュピチュと呼ばれる第三通洞を通じた旧別子銅山輸送の中心「東平」地区



銅の道(12) 東平(1) 第三通洞・かご電車

鉱床がどんどん深くなり、この東平から第三通洞が別子山村側日浦まで通じた。また、ここから索道で下に鉱石を輸送する新しい輸送システムが開通。一般の人をも乗せるかご電車も走り、別子山村側と新居浜を結ぶ大搭脈となった。



銅の道(13) 東平(2) 今の中心

東平歴史資料館・駐車場・メイン工房。現在、新居浜と別子山村を結ぶ別子ラインの奥鹿森ダムの横から行き違いが厳しいが、東平へ登る車道が通じ、車だとなんか?? 東平まで、はいれるようになっている。





銅の道〈14〉東平の象徴旧別子銅山の産業遺産群 インクライン・索道停車場・貯鉱庫

## 6. 東平からかつての生活道 旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る



銅の道〈15〉東平から旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る



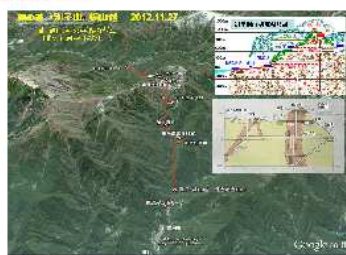
銅の道〈16〉鹿森ダム 遠登志登山口周辺



銅の道〈16〉鹿森ダム 遠登志登山口周辺



銅の道〈17〉新居浜駅 新居浜駅まで戻った時はもう夕闇 別子の山のシルエットが駅の向こうにみえました



前回別子を訪れたときには、交通事情の心配で、銅山越の道をたどれなかった念願の別子山銅山越。ここに有名な別子銅山が本当に会ったのかと疑うほどに、その集落跡・諸施設産業遺産が、紅葉した別子の自然の中に溶け込んで、新しい景観を作っていました。当初、天候と交通手段の不安一杯のスタートでしたが、いろんな人にも出会え、楽しい銅山歩き。前回はビックリしたのですが、別子山村・銅山越の紅葉は素晴らしい。へとへとになりましたが、満足の銅山越Walkでした。

2012. 10. 27. 夕 別子ラインを新居浜へ  
帰りのタクシーの中で



## 別子銅山 銅の輸送路 銅の道

泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

<http://h2o.sakura.ne.jp/forest/forest00data/mt/m1.html> & <http://www2.dokidoki.ne.jp/muragabonjin.htm> より



### (泉屋道)→一次泉屋道

別子銅山が開坑されたのは元禄四年(1697)年、それより60年  
も前の寛永年間より銅山麓の北側の西条藩に属する立川銅山  
が盛んに採掘されていた。

別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間隔は必ずしも円満で  
はなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立  
川銅山城を越え、手塚郡の地域内から赤石運山の東側の小  
箱峠を経て運ばれていた。

### (新居浜側へ直接出る道 二次泉屋道 & 三次泉屋道)

住友の長年にわたる幕府への横断と立川銅山の経営不振  
により 立川銅山が住友の請負鉱山となり、やっと元禄年  
間に西赤石山越として銅山越の道が開かれた

### 二次泉屋道 元禄15年(1702)～寛延2年(1749)

足谷→東延→西赤石南側→豊ヶ原→西赤石と上赤石の間  
→石ヶ山→立川中宿→新居浜口

### 三次仲持道 寛延2(1749)年～明治13年(1880)

足谷→銅山越→角石原→馬の背→御番所→東平→端出場  
立川中宿→新居浜口

### (牛車道)

牛車道 明治13年(1880)～明治26年(1893)

足谷山→銅山越→角石原→石ヶ山→立川中宿→新居浜口

### (第一通洞→上部鉄道→索道→下部鉄道)

◆明治26年(1893)～明治38年(1905)

足谷山→第一通洞→角石原→石ヶ山→打除→惣開精練所

◆明治38年(1905)～明治44年(1911)

足谷山→第一通洞→角石原→石ヶ山→打除→惣開→四坂島

馬車 馬車 上部鉄道 索道 下部鉄道 海上輸送

明治44年 第三通洞が白濁→東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ

## 旧別子銅山の産業遺産が眠る別子山 この別子山 山越の銅の道 「銅山越」

紅葉した別子山 念願の銅山越・銅の道を歩きました  
2012.10.27.



## 別子山 銅山越 2012.10.27.

白濁・銅山越・東平・鹿森ダム

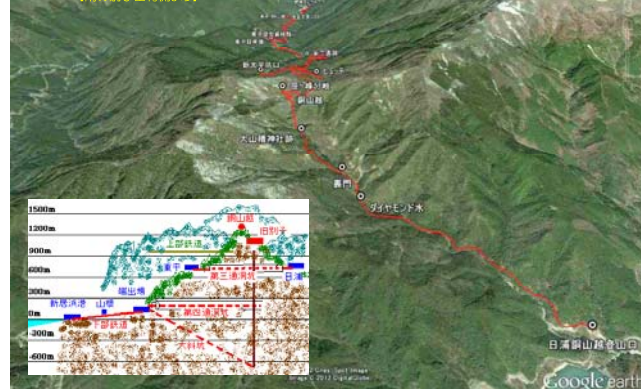


別子山はその發跡から山腹深く銅鉱床がつながる銅の山  
發跡の両側山腹からは坑道が掘りぬかれた別子銅山  
また、被録 銅山峰を越える「銅山越」はかつての銅の道  
この「銅の道」の道筋にはかつての別子銅山の産業遺産が  
奥深い山の中に登場し、「東洋のマツピチュ」とも呼ばれる

## 別子山 銅山越 2012.10.27.

白濁・銅山越・東平・鹿森ダム

【南の別子山村側より】



別子銅山跡の鳥瞰図  
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、  
左側が北で新居浜側である。  
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

## 山深い別子山の山中に かつて こんな諸施設・集落が幾つも存在した











紅葉が進む山腹をジグザグに登って 別子山の西端を大永山トンネルで南へ潜り抜ける 2012.10.27.



大永山トンネルを抜けると 銅山川が東へ溪谷を流れ下る別子山村  
笹ヶ峰から石鎚へと続く四国脊梁の山並を眺めながら東へ 2012.10.27.



別子山の背後 四国の脊梁 石鎚山脈の荒々しい岩稜の山並も見えてくる 2012.10.27.

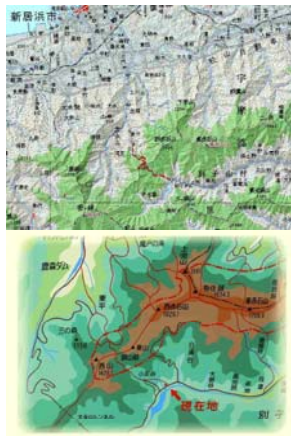


銅山川 別子ダム湖が見えてくるともうまもなく日浦の登山口 2012.10.27.

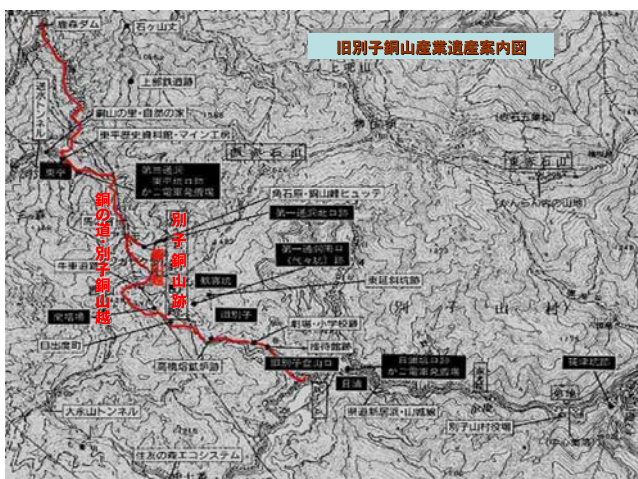


別子山村側 銅山川沿いの紅葉が素晴らしい 2012.10.27.





日浦登山口 銅山越・銅の道の案内板より







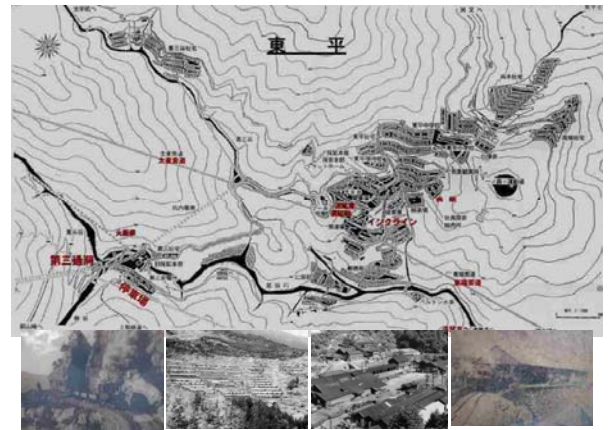
日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口 2012.10.27.



別子山に る旧別子銅山集落



日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口 2012.10.27.



東平地 旧別子銅山 集落 概略図



登り口にあった別子ダムと旧別子銅山登り口の案内板  
また、登り口で出会った土地の人は 昔 銅山が華やかな頃には 日浦からは通洞の中を走る電車があり、銅山越から、銅山越まで、この電車で東平によく出たもので、別子山村は今よりもっと便利だった。



銅の道 銅山越・旧別子銅山跡 登山道 日浦入口南好 2012.10.27.



銅の道・銅山越 旧別子銅山跡 日浦登山口入口 2012.10.27.





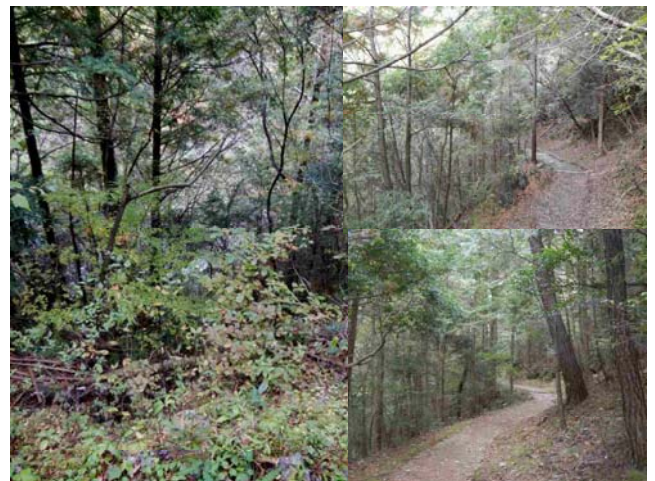
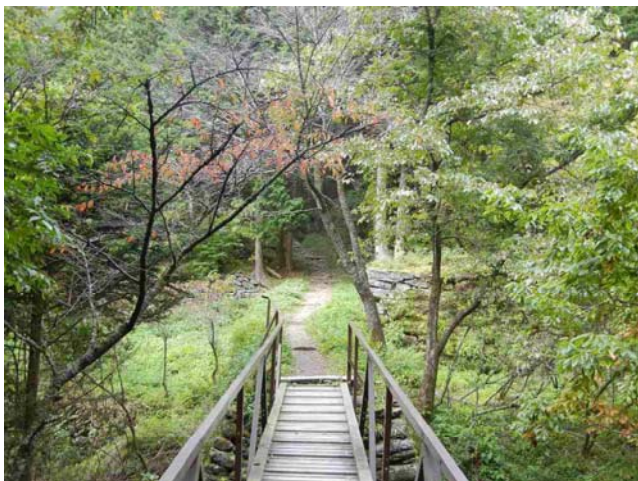
銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.



銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.



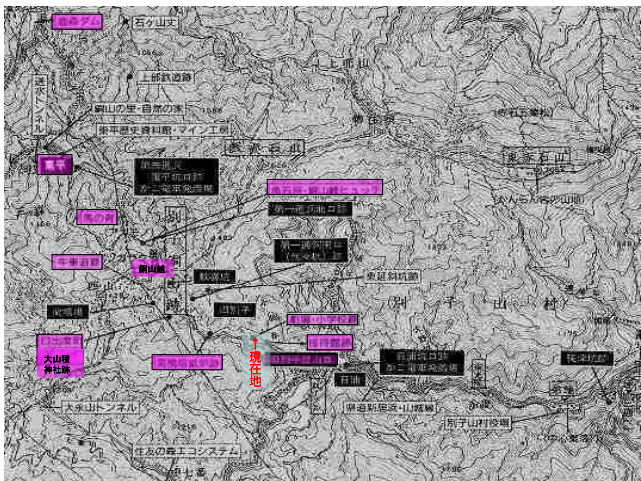
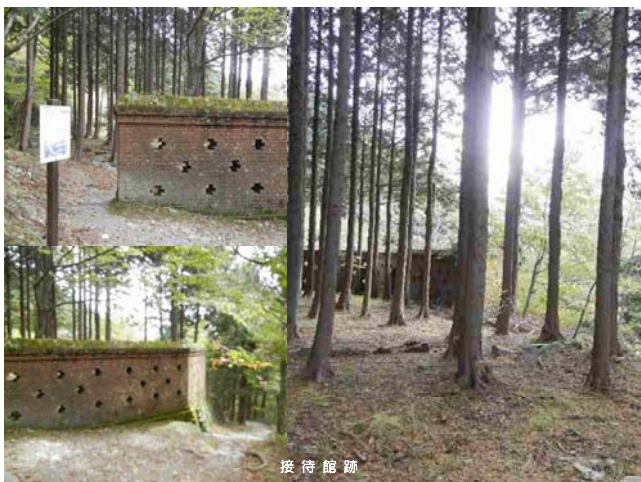
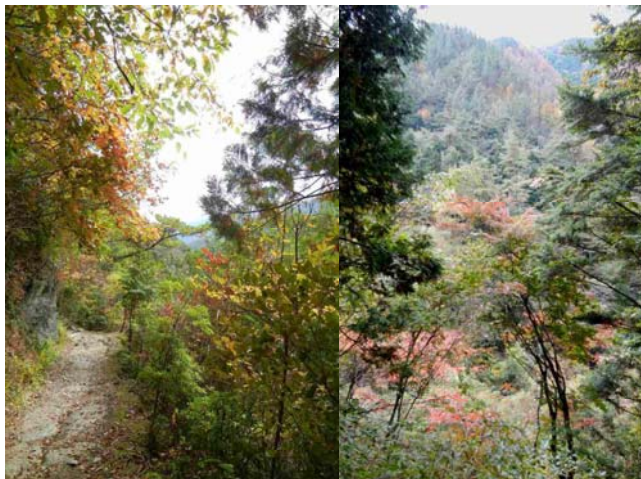
銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.  
登山道では 旧別子銅山の遺構が残る場所 それぞれに遺構案内板が整備されている



小足谷集落跡と味噌・醤油醸造所跡周辺



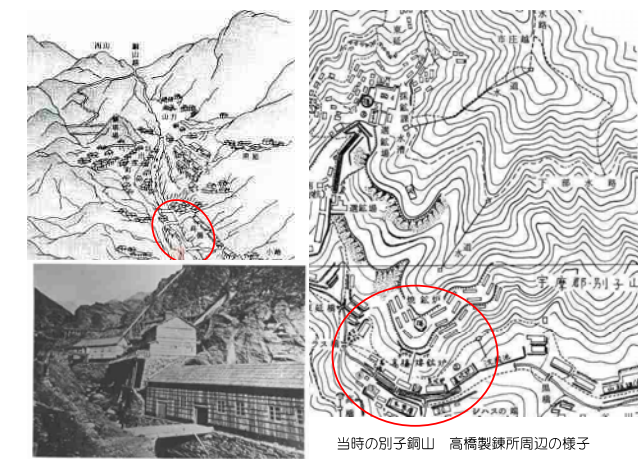








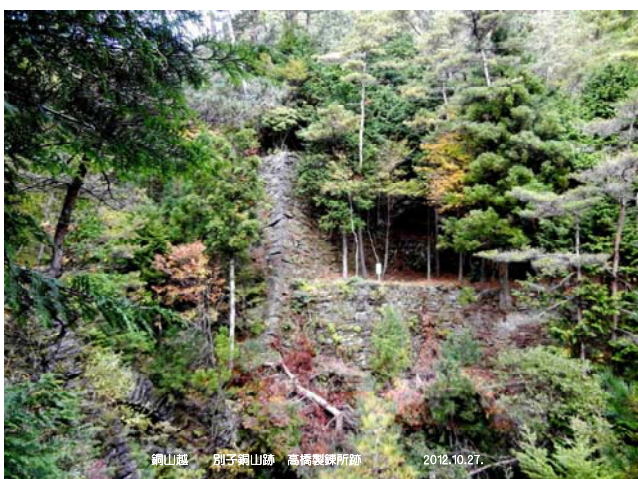
劇場跡と大階段



当時の別子銅山 高橋製錬所周辺の様子



溶鉱炉があった高橋地区周辺 2012.10.27.



銅山遺 別子銅山跡 高橋製錬所跡 2012.10.27.



**高橋製錬所と沈没工場**

対岸の高い石垣は高橋製錬所跡である。この石垣は更に300m上流まで残っているが、この製錬には明治20年代になって建設された片式銅鉱炉(左)と沈没工場(正面)があった。明治28年から政府は銅産地別に規制を設け、製錬の都に出る鉱滓を近隣の川に流さないこととした。そこで製錬所前には鉱滓を集めて治水を促進させ、その上に鉱滓を捨てていた。一時銅の産出で増産工場は流され、銅滓も大半が流れてしまった。ここに残る銅滓は当時の様子をかすかに伝えている。

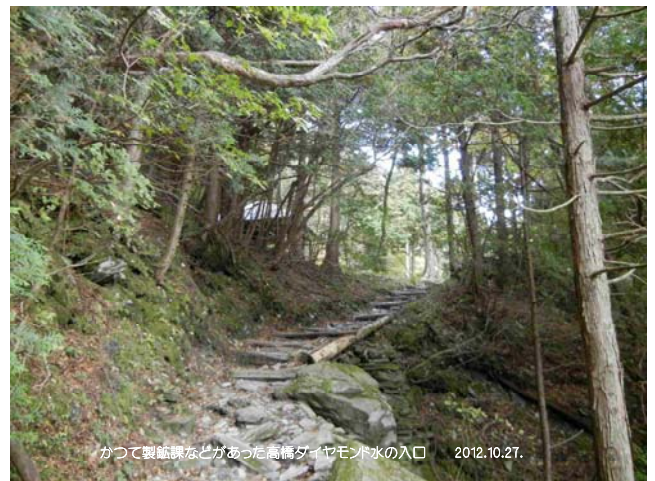
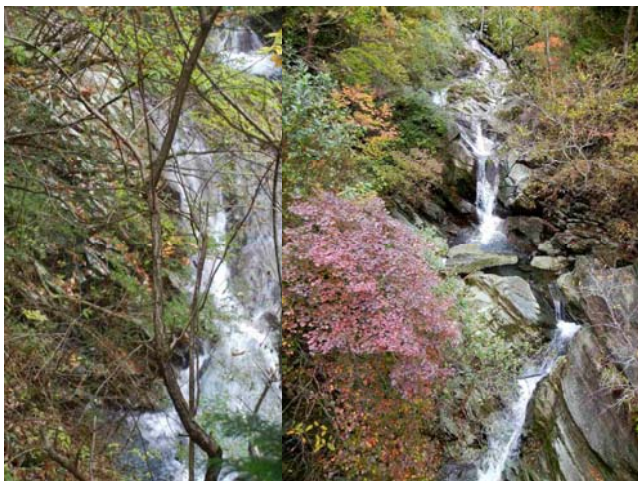
正面には沈没工場といって、銅の品質が悪い鉱石を砕いて粉末にし、水を使って処理する湿式収縮所があったが、明治32年の水害以降その設備が不足谷に移ってからは、自由谷の近くにあった住友病院が一時閉鎖していた。

→風評：鉱石を製錬する都に生ずる汚濁





前の谷川に崩れ落ちた高橋溶鉱炉 暗渠跡



かつて製鉄所などがあつた高橋ダイヤモンド水の入口 2012.10.27.



# 高橋溶鉱炉とダイヤモンド水

古くはこの辺りの地名はタガバシであったが、明治12年(1879)頃この辺りに洋式の製鉄所が建設されてからはタガバシの呼ばれるようになった。ところが明治30年代(1890年代)、新子鉱山の他にもう一軒ある製鉄所というのを捜し当てるためにボーリング調査を始め、ここでも明治25年に調査を行った。手記深度まであと僅かの82mほどの所で水脈に当たり多量の水が噴出し、ジャミングという事故が起きてロッドの先端部分がネジ切れ、掘削不能となった。ダイヤモンドを取り扱った水脈が何処に湧いているのか、調査うともなくダイヤモンド水と呼ばれるようになった。

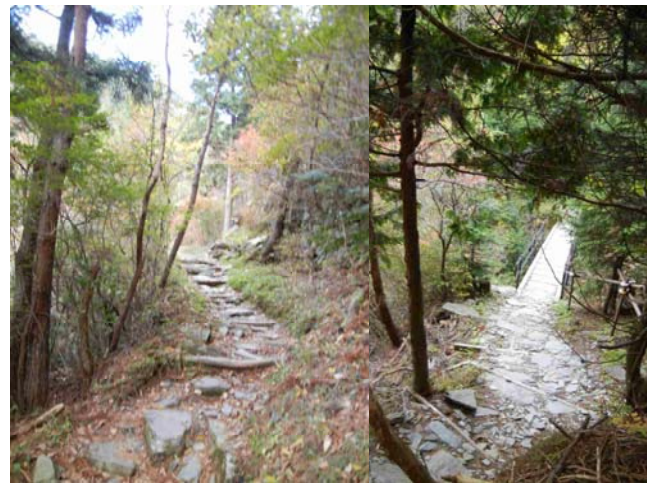
明治10～20年代にかけて対岸の麓の上に煉瓦という鉱石を焼く所があつて、焼窯を取り去った後の鉱石は煉瓦の種でこの後もまで使とし、煉瓦に入れて製鉄所を建てた。明治期にはこの辺り一帯に製鉄所の施設や木炭倉庫がひしめいていた。







谷の分岐点近くトラス橋に近づくと視界が少し広がる



谷の分岐点近くトラス橋 2012.10.27.



谷の対岸に焼鉱炉群跡 かつて銅山盛盛期には山は亜硫酸ガスで丸裸で、諸施設も一掃されたと思われるが、今は紅葉した自然の中になすもれている

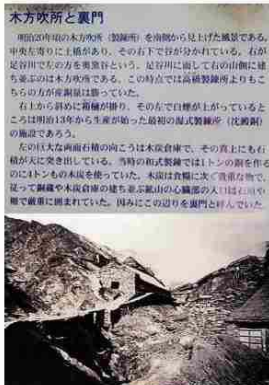
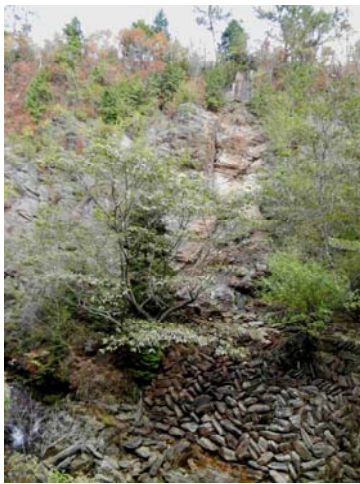


谷の対岸寛政谷経由で銅山越へ行く谷筋と山腹をそのまま行く田出度町経由の谷筋分岐点。2012.10.27.



銅山越の尾根筋が見えてきた 2012.10.27



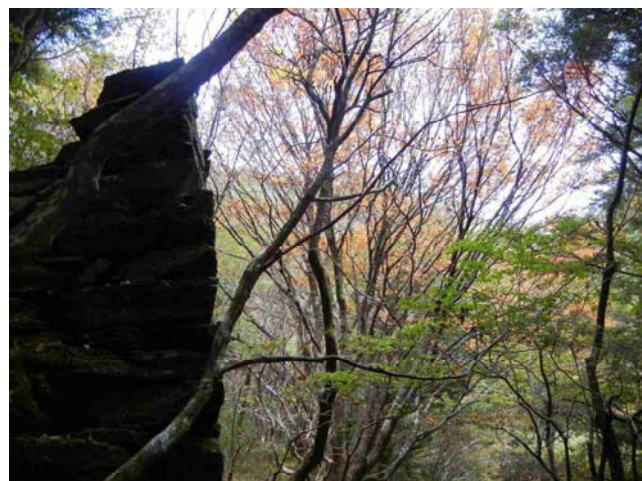


木方吹所と裏門  
東平の町とインクライン  
銅山越  
勘場と見花谷  
目出度町麓山街  
噴出場  
高橋・高橋製錬所  
小足谷集落  
白出度町から銅山越のルートをとる



対岸 木方集落跡 今は樹木にうずまっている









銅山越への広い牛馬道にでた 2012.10.27.



登ってきた銅山越への牛馬道を振り返る 2012.10.27.



牛馬道 右手上方に笹ヶ峰と銅山越の分岐の道標が見えてきた



登ってきた銅山越への牛馬道を振り返る 2012.10.27.





随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.



笹ヶ峰と銅山越の分岐の道標



登って来た小足谷川の最上部 随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.  
遠く南東方向 別子ダムの向こう 冠山・平家平の山並が見えている



銅山越直下より 蘭塔婆山の遺構が見える



牛馬道 銅山越 尾根筋のすぐ下のトラバース道 2012.10.27.



銅山越 峠へ南側から 2012.10.7.



銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下に 開坑以来の基所 蘭塔婆山の遺構が見える  
かつて この谷筋には別子銅山の補施設・街が建ち並んでいた





## 銅山越えからの眺望 2012.10.27.







銅山越から眺めた新居浜の街と真っ赤に色づいた西赤石山 2012.10.27.



西側からの銅山越・西赤石山の尾根筋



銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1.東側の牛車道 2.まっすぐ峠を越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3. 角石原から西側の太平沢から山腹を下る道がある。今回は馬の背をまっすぐ降る泉屋道をとりましたが、ほかの道と違って急な降り道が馬の背を降ってゆく。短距離ですが、よくこの道を綱を担いで降りたものだ。でも、谷に取り囲まれた急斜面の山の山腹に忽然とあらわれた「東平」の姿が遠望され、とても印象的な姿でした。

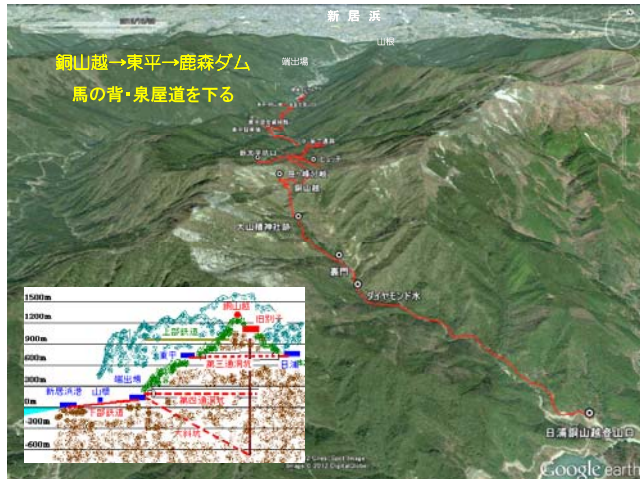


銅山越から眺めた真っ赤に色づいた西赤石の山並 2012.10.27.



銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1.東側の牛車道 2.まっすぐ峠を越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3. 角石原から西側の太平沢から山腹を下る道がある。今回は馬の背をまっすぐ降る泉屋道をとりましたが、ほかの道と違って急な降り道が馬の背を降ってゆく。短距離ですが、よくこの道を綱を担いで降りたものだ。でも、谷に取り囲まれた急斜面の山の山腹に忽然とあらわれた「東平」の姿が遠望され、とても印象的な姿でした。



銅山越→東平→鹿森ダム  
馬の背・泉屋道を下る



別子銅山 銅の輸送路 銅の道

（泉屋道）一次泉屋道  
別子銅山が開採されたのは元禄四年（1697）年で、それより50年  
も前の寛永年間より銅山の北側の西赤石山に属する立川山が  
盛んに採鉱されていた。  
別子銅山は幕府に属しており、間籠山の関所は必ずしも円満で  
はなく、最短期間の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立  
川山に運ばれ、宇摩郡の地域内から赤石連山の東側の小  
箱峠越で運ばれていた。  
（新居浜側へ運搬する道 二次泉屋道 & 三次泉屋道）  
住友の長年にわたる幕府への採鉱と立川山の経営不振  
により、立川山が住友の請負鉱山となり、やがて元禄年  
間に西赤石山越として銅山越の道が開かれた  
二次泉屋道 元禄年間～寛延年間  
足谷山～西赤石山南側～雲ヶ原～西赤石と上興山の中間  
～石山立～立川山～新居浜口  
三次泉屋道 寛延年間～明治40年  
足谷山～銅山越～角石原～馬の背～御番所～東平～露出  
～立川山～新居浜口  
（牛車道）  
牛車道 明治40年～明治45年  
足谷山～銅山越～角石原～石山立～立川山～新居浜口  
（第一通洞→上部鉄道→炭道→下部鉄道）  
◆明治45年～明治46年  
足谷山～第一通洞～角石原～石山立～打摩＝惣開＝四谷島  
（第二通洞）  
◆明治46年～明治47年  
足谷山～第一通洞～角石原～石山立～打摩＝惣開＝四谷島  
（第三通洞）  
◆明治47年～明治48年  
足谷山～第一通洞～角石原～石山立～打摩＝惣開＝四谷島



銅山越→東平→鹿森ダム  
馬の背・泉屋道を下る





ここにもかつて集落があったのだろう。傍らに墓地がありました



銅山越から馬の背へまっすぐ北へ下る泉屋道 2012.10.27.



紅葉した林の中の下り道 銅山峠ヒュッテの標識を見つけ、角石原から馬の背へ



銅山越の北側 角石原 上部鉄道停車場跡  
銅山峠ヒュッテのすぐ横の広場 2012.10.27.



銅山越の北側 角石原 銅山峠ヒュッテ 2012.10.27.  
森の中を降りて、ちょっと降り過ぎかと思ひになりだした頃、林の向こうに明るく開けた広場があり、小さな町が見える。銅山峠の屋根をくり貫いた第一遊洞が通じると、運び出された鉱石がここから上部鉄道で石山までとれるされた。  
ヒュッテのすぐそばに停車場跡があり、このままヒュッテの前を通り抜けると西赤石山・銅山越からの道と合流して東平への牛車道。  
また、もと来た道を引き返すと太平坑から東平へのトランプス道と馬の背を降って東平へ行く道。  
角石原は銅山越北側 銅山交差の結節点。



銅山越の北側 角石原 銅山峠ヒュッテ 2012.10.27.





ブッシュの中の踏み跡をぶ太平坑へ 2012.10.27

このブッシュの中で 向こうから来る人に出会いました  
新太平坑の坑口側にいと親切におしえてもらいました  
おたがい同好の志 ものつまやな〜と笑って分けられました



馬の背へ下る道と分岐して そのまま山腹を登へ 2012.7.27.  
ヒュッテで教えてもらった太平坑・新太平坑へのトラバース道に行く



太平坑 坑口跡 2012.10.27.



谷を渡り口 目印に棒を置いといたと教えてもらった新太平坑への道











馬の背の急な道も終わり、「東平」へ 谷に沿う平坦な石畳道 2012.7.27.



西側の谷筋の道と出会うと馬の背の急な道も終わり、谷に沿う平坦な石畳道 東平にも近い



第三通洞入口 2012.10.27.



狭い谷を急な谷川 唐谷川・柳谷川が水しびきを上げて合流する このすぐ横に第三通洞の入口がありました



第三通洞入口 2012.10.27.







広場の南側から北側を眺めると坂の上に停車場が見える



**第三通洞** 明治35年完成  
明治44年別子山側に日浦通洞がぬけ、東平と日浦がトンネルで結ばれ、別子鉱山の大動脈となった。  
また、かご電車と呼ばれる鳥かご電車を連結して一般にも開放。 昭和48年閉山廃止まで多くの人も運び続けた。



火薬庫



**第三通洞のかご電車停車場**

第三通洞のすぐ横が広場になっていて、川はトンネルで広場下を抜け、その北側山腰の斜面に停車場がありました。 また、反対の南側の山腰に火薬庫がありました



第三社宅の石垣を過ぎて  
右側の尾根筋の先端を回りこむ坂道を降りて行く  
いよいよ東平の中心部である 2012.10.27.



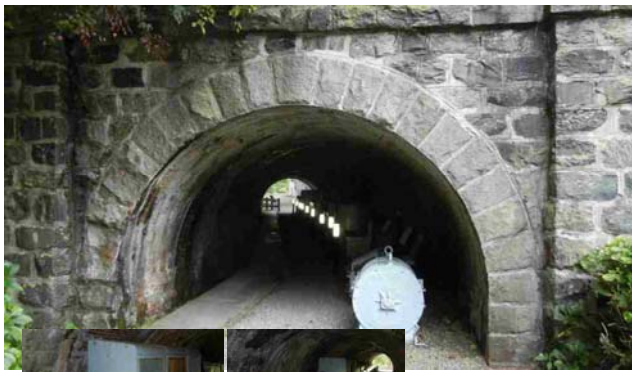
広場の西側に沿って北へ延びる枝尾根の向こう側が東平の中心部  
山裾に沿って遊歩道が整備されている。 広場から出てたところすぐ 山側に石垣が続く。  
この石垣の上方が第三社宅が建ち並んでいた場所である。  
石垣に沿って北へ延びる枝尾根の先端部を西に回りこむ



枝尾根の先端部にある駐車場に数多くの車が止まっている







トンネルの中に展示されていた  
かご電車  
このトンネルの向こうは東平歴  
史記念館など東平の中心部



東平からながめる真っ赤な西赤石山の稜線 2012.10.27.



東平歴史記念館 インターネットより写真採取



枝尾根の先端部 トンネルに銅山の運送に使われた電車が展示されていました



広場西側メイン工房から西赤石山・銅山越の稜線を眺める  
この広場の崖下に貯鉱庫やインクラインなど別子銅山の産業遺産が残っている



東平歴史博物館横から西側駐車場



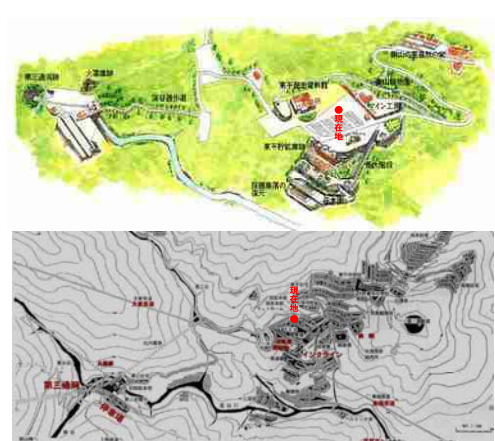
メイン工房



東平の中心部 インターネットより写真採取  
東平駐車場 新橋沢からここまでドライブウェイが繋がっている  
ただし、鹿森ダムの南 河又で 県道47号からこの東平へ入る道  
は狭く車の行き違いの問題など交通制限されている(私道???)



駐車場の 北西 メイン工房から銅山越の稜線を眺める  
2012.11.21.







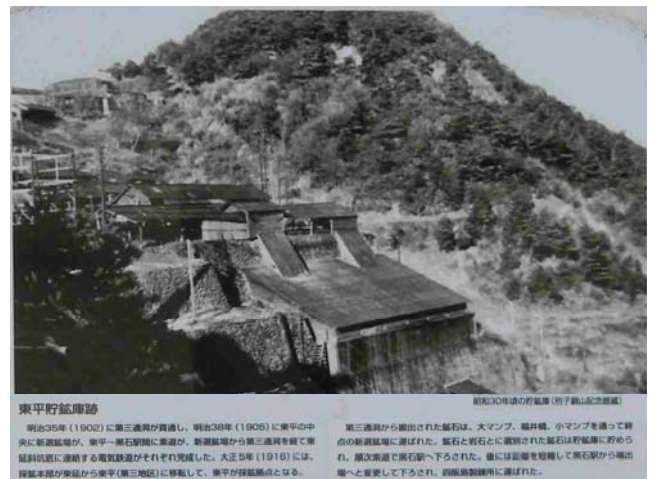
東第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27.  
この上方に第三通洞により運ばれた鉱石貯蔵庫がある



第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27



東平貯鉱庫跡 第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫跡 2012.10.27.



東平貯鉱庫跡  
明治35年(1902)に第三通洞が貫通し、明治38年(1905)に東平の中央に新選鉱場が、東平一帯に新選鉱場が、新選鉱場から第三通洞を経て東平貯鉱庫に運搬する電気鉄道がそれぞれ完成した。大正5年(1916)には、東平本所が東平(第三通洞)に移転して、東平が新選鉱場となる。  
第三通洞から搬出された鉱石は、大マンブ、橋井橋、小マンブを渡って終点の新選鉱場に運ばれた。鉱石と岩石と共に搬出された鉱石は貯蔵庫に貯められ、順次索道で東平貯へ下ろされた。後には新選鉱場を短期して東平貯から端出場へと変更して下ろされ、新選鉱場に運ばれた。



第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上・下)から端出場への索道停車場跡(中)を眺める 2012.10.27.



第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上)から端出場への索道停車場跡(下)を眺める 2012.10.27.









木々の間からダム湖が見え出すとまもなく県道にでる やれやれである



東平から15時間 で新居浜側 銅山越 峠 下り  
朝10時 別子山13則登山口白瀬を出 して 後4時15分新居浜側  
たっ り日がかりの銅山越でした



朝 地域バスで白瀬へ向かった県道 2012.10.27.  
連続するトンネルで別子山を越えて別子山村へと伸びている



やっと携帯が通じて タクシーに迎えに来てもらえる  
待つ間 ぶっと崖を見ると覆りのサルが崖をよじ登っていました  
15分ほど待って タクシーが現われ、新居浜駅へ やれやれです



鹿森ダムのすぐ下のループ橋  
青龍橋 2012.10.27.

鹿森ダムサイトのすぐ下は  
傾斜が急なため、  
道はループ橋で下ってゆく





銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下には 開坑以来の墓所 龍塔婆山の遺構が見える  
かつて この谷筋には別子銅山の跡施設・街が建ち並んでいた



新居浜駅に着いた時はもう夕暮れ  
駅の向こうに銅山越の山々がシルエットで眺められました  
念願の銅山越 満足感一杯の一日でした 2012.10.27.



東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 泉平 2012.10.27.  
周囲と全く隔絶した山の中 どうして下と繋がっていたのかがっていたのか……



【 参考 】 Country Walk・風来坊  
四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk 赤石山系 別子銅山の山郷 別子山村 2005年11月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/4waik10.pdf>